学校番号	3037

令和８年度　国際人材科

教科	国際人材	科目	(学)国際情報	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	「高校情報Ⅰ Python」（実教出版） 「ベストフィット情報Ⅰ」（実教出版） 「Life is Tech! Lesson」（ライフイズテック）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

国際情報では，他の教科等の学びとあわせて，このような変化する社会で子供達が生きていくための資質・能力を育むものでなければならない。情報に関する科学的な見方・考え方を重視するとともに，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用するための知識及び技能を身に付け，実際に活用する力を養うとともに，情報社会に主体的に参画する態度を養うことをめざします。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けさせるとともに、情報化の進展する社会の特質およびそのような社会と人間との関わりについて考察する力を養う。
【思考力、判断力、表現力等】事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いるための思考力、判断力、表現力を養う。
【学びに向かう力、人間性等】情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとする態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	情報と情報技術についての知識と技能，情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法についての知識と技能を身に付けるとともに，情報社会と人との関わりについては，情報に関する法規や制度及びマナー，個人が果たす役割や責任等について，情報と情報技術の理解と併せて身に付ける。	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ，さまざまな事象を情報とその結び付きの視点から捉え，複数の情報を結び付けて新たな意味を見いだす力を養うとともに，問題を発見・解決する各段階で情報と情報技術を活用する過程を振り返り改善することで，情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。	情報と情報技術を適切に活用することを通して，法規や制度及びマナーを守ろうとする態度，情報セキュリティを確保しようとする態度などの情報モラルを養い，これらを踏まえて情報と情報技術を活用することで情報社会 に主体的に参画する態度を養う。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	情報社会	● 情報と情報社会 ● 問題解決の考え方 ● 法規による安全対策 ● 個人情報とその扱い ● 知的財産権の概要と産業財産権 著作権	a: 情報セキュリティとプライバシー関連の法規、個人情報の概念、知的財産権の基本への理解と説明能力がある。 b: 情報の適正利用や知的財産権の問題に対する批判的な考察と積極的な議論の能力がある。 c: 情報セキュリティや知的財産権の問題に関心を持ち、自発的で実践的な取り組みへの意欲がある。	小テスト	レポート	観察
	情報デザイン	● コミュニケーションとメディア ● 情報デザインと表現の工夫 Webページと情報デザイン	a: コミュニケーション手法、電子メール作法、メディア概念、メディアリテラシー、情報デザイン、論文作成技術、Web ページ作成と HTML/CSS の適用に関する基本的な理解と技術を有する。 b: コミュニケーション障害の分析、情報伝達の論理的表現、評価方法の企画と適用、SEO 戦略とウェブトラフィック増加策の提案に関する批判的思考能力を示す。 c: 電子メールの作法や情報の改善方法に積極的に取り組んでおり、自らの表現を改善しようとする姿勢がある。Web ページ制作や SEO 対策にも意欲的に取り組んでいる。	小テスト	成果物	課題提出

2学期	デジタル	● デジタル情報の特徴 ● 数値と文字の表現 ● 演算の仕組み ● 音の表現 ● 画像の表現 ● コンピュータの構成と動作 コンピュータの性能	a: アナログとデジタルの理解、数値システムの変換、基本論理回路、デジタル化プロセス、ハードウェアとソフトウェア、OS の機能、CPU の動作原理、及びデータ表現の誤差への理解。 b: データ変換の論理的説明、音質とデータ量の関係、解像度や階調の実験的理解、計算結果の誤差に対する批判的評価。 c: デジタル化技術やコンピュータ構造に関する学習への興味関心と実験への積極的参加。	小テスト	レポート	課題提出
	ネットワーク	● ネットワークとプロトコル ● インターネットの仕組み ● Webページの閲覧とメールの送受信 ● 情報システム ● 情報システムを支えるデータベース ● データベースの仕組み ● 個人による安全対策 安全のための情報技術	a: LAN と WAN、集中処理と分散処理の違い、クライアントサーバシステム、IPv4/IPv6、ドメイン名管理、ルータの役割、Web ページと電子メールの仕組み、データベースと DBMS、ビッグデータとオープンデータ、テーブルとリレーションシップ、SQL、パスワードとコンピュータウイルス、不正アクセス、ファイアウォール、フィルタリング、電子すかし、パリティビット、共通鍵暗号と公開鍵暗号の理解がある。 b: 異なる情報システムの機能説明、データの流れの追跡説明、データ抽出方法の理解、ウイルス対策や有害情報の対処法、セキュリティ技術の正確な説明能力がある。 c: 身近なコンピュータシステム、Web ページと電子メールの仕組み、リレーショナルデータベース、情報セキュリティに関する学習と実習への興味関心と積極的な取り組みがある。	小テスト	パフォーマンス	提出課題

	問題解決	● データの収集と整理 ● ソフトウェアを利用したデータの処理 ● 統計量とデータの尺度 ● 時系列分析と回帰分析 モデル化とシミュレーション	a: オープンデータの形式、データの結合と表作成、数値データの誤差、表計算ソフトウェアの利用、テキストマイニング、画像認識、統計量の計算、ヒストグラムや箱ひげ図の作成、量的・質的データの区別、分布の理解、検定の概念と実施、移動平均の計算、回帰分析と相関係数、最小二乗法、区間推定、クロス集計、モデル化とシミュレーションに関する理解がある。 b: 欠損値の補完、関数の使用、適切なグラフ選択、データ抽出、有意性の判断、モデルの分類と具体例の説明、統計モデルと確率モデルのシミュレーションからの考察ができる。 c: データ分析、検定、モデリングへの関心と積極的な取り組みがある。	小テスト	成果物	観察

3学期	プログラミング	● アルゴリズムとプログラミング ● プログラミングの基本 ● 配列 ● 関数 ● 探索のプログラム 整列のプログラム	a: アルゴリズムとプログラムの基礎、フローチャート作成、プログラミング言語の特徴と比較、プログラム作成手順、エラーの種類、基本構造のプログラム作成、変数の役割、演算子の機能、プログラミングの基本ルール、配列とその操作、多重ループ、関数の概念と種類、組み込み関数とユーザ定義関数、関数の定義と呼び出し、グローバル変数とローカル変数の理解と使用、線形探索と二分探索アルゴリズム、整列アルゴリズムに関する知識がある。 b: プログラムの構文エラーと論理エラーの違いの説明、効率的な配列の使用、引数と戻り値のデータ交換、探索アルゴリズムの適用、整列アルゴリズムの工夫、プログラムの正しさの考察ができる。 c: プログラム作成とアルゴリズム開発における積極的な取り組み、探索と整列プログラムの実践的な作成と評価に意欲がある。	小テスト 実技テスト	成果物	提出課題

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度